

# 地域子育て支援拠点研修事業〈九州開催〉

## 中堅支援者向け研修

### 〈開催概要〉

- 開催日 2011年10月29日（土）10：00～16：30
- 会場 西南学院大学 西南コミュニティーセンター（福岡市早良区西新6-2-92）
- 主催 財団法人こども未来財団・NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会
- 後援 厚生労働省・（社福）全国社会福祉協議会・西南学院大学・福岡県・福岡市
- 協力 地域ぐるみの子育てをすすめるひだまりの会
- 参加者数 156名（行政 52名・NPO/任意団体 54名・その他団体/企業 49名・その他 1名）

### 〈プログラム〉

#### ◆開会挨拶・主催者挨拶

財団法人こども未来財団  
研修調査部 研修事業課 武田久恵さん



#### ◆主催者挨拶

NPO 法人子育てひろば全国連絡協議会理事・  
NPO 法人子育て談話室理事長 柴田恒美さん



#### ◆プログラム1 基調報告 『地域子育て支援拠点事業の概要と展望』

[講師] 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課 少子化対策企画室長 黒田秀郎さん

地域子育て支援拠点事業が生まれた背景、成り立ちから機能の変化にいたるまで、国の最新のデータや資料に基づいたわかりやすい解説をしていただきました。また、子育て支援制度全体の仕組みや改正、財源なども説明していただきました。「子ども、子育てシステムの具体的内容（ポイント）」についての説明もあり、「すべての子どもへの良質な生育環境を保証し、子ども、子育て家庭を社会全体で支援しよう」という国からのしっかりとした姿勢を改めて感じ取ることができました。



#### ◆プログラム2 基調講演 『地域子育て支援拠点事業における活動の指標』

[講師] 日本福祉大学 教授 渡辺頭一郎さん

地域子育て拠点事業がさまざまな役割を担う中で、利用者（子育て親子）の視点にたち、支援の質の標準化を目指すべく作られた「ガイドライン」に沿って話していただきました。日本国内の地域子育て拠点が5500か所を超え、多様性を帯びる中、その資質を確保すべく私たち支援者が実践していく上の理念や方法を詳しく説明していただきました。



子育て環境が移り変わり、地域との関わりが薄れ、子育てに寛容でなくなっていた社会の中、いつも緊張を強いられながらの育児をする現在の親に対して、支援者は、温かく迎え入れ、受容し、そして、つないでいくという重要な役割を担っているということでした。中でも親同士の支え合い、(ピアサポート)は大切に、「悩んでいるのは自分だけではない」という気づきだけで支えられることがあるということでした。これからの子育て支援者に求められることとして、アウトリーチ(地域にこちらから出向いていくこと)の重要性も話していただきました。子育て支援に携わる者としてこれからの実践に役立つ大切なお話をたくさん聞くことができました。



### ◆プログラム3 分科会

#### <第1分科会>

「ひろばから広がるさまざまな支援」 ～地域社会のなかで求められる支援とは何か～

- 【コーディネーター】 柴田恒美さん NPO 法人子育て談話室 理事長  
【コメンテーター】 西野祥子さん 早良区西南子どもプラザ 施設長 (西南学院大学 教授)
- 事例報告 川波理紗子さん 早良区西南子どもプラザ
  - 事例報告 棚橋美智子さん 宗像子育てネットワーク「こねっと」副代表
  - 事例報告 西山和枝さん NPO 法人子育て談話室 理事

#### ◇川波さんの事例報告

大学生が積極的にボランティアとして関わっている西南子どもプラザの報告があり、学生が部活動単位で関わっているのが印象的でした。

親は多様な価値観に触れたり自身の子育てを振り返られる、大学生は近い将来親になる事のイメージを膨らませ、心の準備ができるという、互いに貴重な機会として刺激を受け合っていると話されました。



#### ◇棚橋さんの事例報告

中学生と乳幼児が交流できる日の里子育てサロンの報告がありました。中学生と親子の触れ合いの中で、親は少し先の子育てを見据えられる場に、思春期の子どもは親の大変さ、あたたかさを感じられる機会になっています。また、校内で乳幼児が安心して過ごせる環境作り、これからの課題について話されました。また会場内に交流の様子の写真が沢山展示され、中学生や親子の素敵な笑顔が印象的でした。



#### ◇西山さんの事例報告

家族が孤立せず選べるように多様な支援事業を展開している、NPO 法人子育て談話室の報告がありました。支援の場に出てこられず孤立している家庭へ向けての取り組みとして、2010年よりホームスタートを始め、見守りのネットワークを構築し、地域から信頼される団体を目指していると話されました。



西野さんより、人間は共存在であること。支えあうこと。ひろばを拠点にしながら様々な活動をしている共通点は、子どもが育つ地域づくりであり、ずっと繋げていく事が大切です。また、子育ての場の提供型支援だけでは限界があります。自分たちから外へ目を向け、支援の対象を広げていきましょう。と話がありました。

#### ◇ワークショップ

今活動している支援と、これからできそうな支援を、各グループで書き出し発表してもらいました。様々な支援の発表があり、皆さんが世代を超えた地域づくりを目指していると感じました。

西野さんより、支援者の前に自分も地域の一人であり、大人が地域の中に溶け込む事で、子どもが安心して育つ事をご自身の経験談と共に話され、できる場所のできる事から支援をし、地域を支える力をつけてくださいとまとめの言葉がありました。



#### ◇最後に皆さんからの感想

- ・皆さんそれぞれ頑張って活動されているなど、元気をもらいました。
  - ・多方面から話が聞けてよかったです。
  - ・学んだ事を持ち帰って、自分の活動に生かしていきたいです。
  - ・支援者同士の交流も大切だと感じました。
  - ・子育て支援がいない未来になるようにがんばりたいです。
- など、皆さん前向きな言葉が多かったです。

#### <第2分科会>

「親子によりそうスタッフであるために」 ～子育て、親育ちに求められるスタッフの力～

- 【講師】 高山静子さん 浜松学院大学 准教授  
【コーディネーター】 中條美奈子さん NPO 法人マミーズ・ネット 理事長  
●事例報告 深堀和枝さん 八幡東さくら保育所 所長

#### ◇高山さんの講義

「子育て、親育ちに求められるスタッフの力」をテーマに、お話を聞きました。

子育て支援においては、相手を知り、環境を設定し、関係を作り、支援し、振り返り学ぶ。これが一連の流れで行われることですが、こと子育て支援の「場」においては、環境8割、かかわり2割と言われるくらい「環境構成」は、とても大切なことです。

広場は子どもにとって良質な空間であってほしい。初めての人でも不安な人でも、子どもが落ち着いてよく遊ぶことができる居心地のよい環境であれば、お母さんも心を開いてくれる、ということを知りやすく色々な広場の写真を交えながらのお話でした。



おもちゃが散らかり放題で子どもが走り回っている部屋では、小さな赤ちゃんを床に下ろすことはできないし、派手で人工的な色遣いのおもちゃばかりがある部屋では、子どもの色に関する感性が育ちにくく、子どもが興奮してしまいます。部屋は色と調和を考え、走り回らずにすむように家具をレイアウトし、落ち着いて子どもが遊び込むことができる仕掛けをたくさん作る。子どもが熱心に遊ぶことができると見守る親も自然と笑顔になり、他の親子との交流も増え、ななめの関係も育っていくのですよ。ということでした。

子育て支援は生活の支援。子どもが健やかに育ち、親がわが子とよい関係をつくり、人の中で子育てができる地域環境を作ることが子育て支援の最終目的といえますよ。と結ばれました。

最後に、支援者の力量（専門性）が高ければ高いほど「専門家イメージ」とはほど遠く、普通のおばちゃんのように見えるそうです。つまり温かい雰囲気、世間話ができる人。「これなら自信がある。」と、皆さんうなずいていたのが大変印象的でした。

#### ◇深堀さんの事例報告

さくらキッズルームとして、地域の親子に親しまれているセンターで、とても居心地のよい場所だということが大変よく伝わってきた報告でした。来ているお母さんたちが力をつけていけるようなプログラムなどを設けたり、定期的に行われるイベントを「とっかかり」として、来場した親子の関係性を大変重視し、しっかりかかわれるよう、スタッフの資質向上のため、研修にも力を注いでいる様子がよくわかりました。また行政や保育所との連携も細やかに行われていました。



#### ◇ワークショップ

まず今日の研修の気づきをたくさん書いてグループのメンバーと話し合うことからスタートしましたが、中條さんのコーディネートで、最初から大変活発なワークショップとなりました。

最終的には支援者として今日の研修を受け、自分の支援力の不足をおぎなうには？力がある人は維持するためどうすればよいのか？他のスタッフに今日の学びをどう伝えるか？というところまで深めじっくり話し合うことができました。

最後に高山さん、深堀さんも交え、具体的な質疑応答などが行われ、皆さん大変満足のいく分科会となりました。



## <第3分科会>

### 「配慮を必要とする親子への支援」

【講師】 渡辺 颯一郎さん 日本福祉大学 教授

●事例報告 渡邊福<sup>さき</sup>さん 筑豊子育てネットワーク「かてて」代表

●事例報告 金子加代さん ぼればれの会（障がいを考える会）代表

#### ◇渡邊さんの事例報告

障がいをもつ親子4組との関わりについての事例報告がありました。支援の在り方として、「頑張って」ではなく、「本当にがんばっていますね！」という言葉を選びながらの声かけや、大勢のためよりも一組の親子のために「いつでも待っていますよ」という話し方が望ましいこと、配慮を必要とする親子への対応は様々で臨機応変に対応することがとても大切、とおっしゃっていました。また、スタッフだけで抱え込まないためにも、「ぼればれの会」と連携をとっていると話されました。



#### ◇金子さんの事例報告

障がいについて何も知らずに始まったわが子の育児の過程で、悩み、孤立していたときに、保健師の支援を得ながら、仲間と共に会を立ち上げた、というお話がありました。

支援の在り方として、「マニュアル」はなく、誠実さと「一緒に考えよう」という寄り添う心がとても大切であること、また、行政には子どもに寄り添った発言とサポートをしてくれる潤滑油のような役目を担ってほしい、とおっしゃっていました。



#### ◇渡辺さんの講義

障がいの範囲・分類、発達障がいに関する基本的な概要とその世界観についての説明がありました。発達障がいは、偏見の目で見られることも少なくなく、支援者が障がいを個性として尊重し、温かく受容することで信頼関係を築くことが重要になる、とおっしゃっていました。

次にロールプレイを2つ行いました。いくつかの親の感情を想定してグループごとに実際に演じたり、親への声掛けを考えるワークを実施しました。

そして、渡辺先生は、親支援・家族支援をしていく上で大切なことは、親・家族の気持ちに寄り添っていくことであり、必要に応じて地域との連携を図っていくことである、と結ばれました。

